

竹を切るのに悪戦苦闘して
いました。

その後、木製のむしけん
（「ひらがな」けん玉ゲーム）
大会などで盛り上がりまし
た。

今回実施した木工教室
を、夏休みの宿題の自由
研究課題としている小学
生もいて、熱心に、「この
木の樹種名は、何ですか。」
などの質問をされるお母
さんもいました。この教
室が、がんばって作製し
た作品と共に夏休みの楽
しい思い出となれば幸い
です。

この夏休み期間中に、た
くさんの児童、先生、保護
者の方に森林教室等を実施
しましたが、少しでも森
林・林業に興味を持って

頂き、森林を大切にする気
持ちを持ち続けて欲しいと
願っています。



親子仲良く木工作製
（高知市のふれあいセンター）



各地のたより



八月一日、徳島市の佐古
児童館で小学生など五〇
名を対象とした森林教室
と木工クラフトを行いま
した。

森林教室では、森林には、
水を貯えることや、空気を
きれいにする働きがあるこ
と、また、森林には、多く
の動物が住んでいることな
どをパネルを使って説明し
ました。

木工クラフトでは、子供

たちが作製したのは、間伐
材を使用した「鉛筆立て」
と「木の枝を使った鉛筆」
です。

「鉛筆立て」は、ボンド
で板を貼り合わせて基本の
型を作ります。飾り付けは
子供たちが、自由に行いま
す。

飾り付けの材料は、森か
らの贈り物である、ドンダ
リや松ぼっくり等を含め、
また、自作のマスコットや
太陽の形に切った板などの
ほか、カラフルなマグネッ
トシートも使って思い思い
に鉛筆立てを飾り付けてい
ました。なかには飾りが多

すぎて鉛筆を立てるスペー
スが埋まってしまった鉛筆
立て等もありました。

「木の枝を使って作製す
る鉛筆」は、木の枝に穴を
開け芯を差し込んで作りま
す。当日は、芯を入れる穴
が少し狭くなりきつくなっ
ていたため、みんな苦勞し
て芯を差し込んでいました
が、枝先を尖らせて鉛筆ら
しい形になると満足げに鉛
筆立てに立てていました。

作製された作品を見てみ
ますと、それぞれ創意工
夫をこらしたオリジナルの
「鉛筆立て」と「小枝の鉛筆」
が完成していました。
子供たちもその出来映え
に、大喜びでした。
今回、参加してくれた子
供たちは普段、木で物を作

ることは全くないそうです
が、今回の木工クラフトを
とても楽しんでくれたよう
で、機会があれば別の物を
作ってみたいと言っていま
した。木材の利用を増やす
ためには木材を使う人の裾野
を広げることが大切で
が、今回の教室がその足が
かりとなったのではと思
います。



職員
の指導で
「鉛筆立て作製中」



八月二〇日、徳島市の
加茂児童館で小学生など
二七名を対象とした森林
教室「木工クラフト」を行
いました。今回子供たちが
作製したのは、徳島県産間
伐材を使用した写真立てと
木の枝や木の実を使った動
物マスコットなどの飾り
です。

最初に森林の働きとし
て、森林には、なぜ沢山の
動物が住めるのかなどの話
をしたあと、写真立ての作
製にとりかかりました。子
供たちは写真立てを作り終
わると、次々に動物のマ
スコットに取りかかっていま
した。マスコットは自分で
作る物を決めて部品を選
ぶので、材料を置いたス
ペー
スの前で部品を仮組みし
たりしながら思い思いの部
品を取って、いろいろな物
を作っていました。こちら
が準備した動物以外にも、
ネコやウサギ、鳥、カメ、
タヌキ、コアラ、ロボット、
モンスターなど、多彩な作
品ができあがっていました
た。ノコギリを使ったこと
がない子供もいて、枝を切
るのに苦労していました
が、切り終わって部品が
できるとうれしそうにしてい
ました。また、今回来れな
かった自分の兄弟にお土産
を作っている子供も数人
いたり、「次はいつ?」とか「来

月はやるの?」と聞いてき
たりと、木工クラフトをと
ても気に入ってくれたよう
でした。

最近、子供たちが木に触
れる機会がとてまもなく
なっていますが、子供たち
にとっては機会が無いだけ
で、実際にやってみると楽
しいと感じるということ
を再確認できました。当署
としても今後も継続して木



オリジナル写真立て作製中

触れる機会を設け、木を身
近に感じてもらえるよう取
り組んでいきたいと考えて
います。



八月二二日、徳島県美馬
市中尾山において、防災
へり救助訓練が行われまし
た。

これは、林業木材製造業
労働災害防止協会徳島県支
部が主催し、徳島県内の森
林組合や行政、消防関係者
ら一五二名が集まり、当署
からも一八名が参加しまし
た。

午前中は、大径木の伐
採・造材技術の講習を受

けました。胸高直径七二センチのスギをくさびを使わず、ジャッキを利用して伐倒しました。講師いわく『ジャッキを使えば、くさびを打つ体力の消耗を防ぎ、伐倒時間も短縮できる』ということでジャッキを使った伐採をお勧めするということでした。

次に、防災ヘリでの救助を想定した訓練では、あ

いにく当日の朝に防災ヘリが修理点検を行うことになり、防災ヘリの参加は中止となりましたが、県消防防災航空隊から、GPSなどで場所の特定、風船や発煙筒等でヘリに災害ポイントを知らせるなど、ヘリが救助するために必要な内容を指導して頂きました。

昼食後は体育館で美馬市消防署の職員に救助技術を教わりました。

班に分かれて、心肺蘇生法を参加者全員がマネキンを使って実践しました。

ヘリが来られなかったのは残念でしたが、日頃行えない訓練であり、参加者は真剣な眼差しで講師の話に集中していました。

県内の林業関係者を集め



ジャッキを使った伐倒訓練

てという有意義な訓練であり、重大災害はもとより林業労働災害が起きないように訓練の成果を生かせればと思います。



津野町郷地区地域活性協

議会と津野町の主催による「不入山森林学習会」および「つぺん四万十裏源流 爽快！不入溪谷ウォーキング」が開かれました。

この催しは、同協議会

が地域おこしの一環として、地域のシンボルである四万十川裏源流のある不入溪谷をフィールドとして地域の活性化に取り組んでい

ます。この度、不入山を管轄している当署に対し、不入山の植生や歴史等について講義をしてほしいとの依頼を受け、当署職員が二名参加しました。

七月二七日に開催された、「不入山森林学習会」には、地域の方々や小学生

など約五〇名が、王在家多

目的集会所「平成館」に集まり、不入山が土佐藩の御留山として扱われた時代から森林軌道が敷設されていた当時の森林管理や木材生産の歴史や不入山の主な植生などについて座学を行ったあと、貴重なコウヤマキの原生林である「小筋畝山コウヤマキ遺伝子保存保護林」へ登りました。

参加者は、登山道の途中

にあるヤブニッケイやケクロモジのさわやかな香りや、スイシバの酸味を楽しんだり、ちょうど咲き始めたヒガンバナ科のキツネノカミソリの群生地を眺めながら、登山道の一部になっている森林軌道の跡を散策しました。

コウヤマキ純林の林内では、独特のなんともいえないフカフカした林床の感触やコウヤマキの温かい木肌を感じ、心地よい森歩きを楽しみました。

森の奥まで足を延ばしてみると、さらに豊かなコウヤマキの純林が広がり、深さを増した林床の感触や一番大きな大王コウヤマキに触れて歓声をあげていました。

コースの途中にある不入

溪谷と四国カルストを一望できる「ムササビ岩」では、さわやかな森の風を感じたり、ムササビの巣を確認することもできました。

今回は、子供たちが多く参加し、いろいろなことを素直に感じる事ができる幼い頃に、郷土の自然や森に触れるという体験は、将来大人になっても地元を誇りを持ち続けながらたくましく生きていくことができ

る心の支えになることだろうと思います。

また、八月二五日に開催された、「てっぺん四万十裏源流 爽快！不入溪谷ウォーキング」は高知市内を中心に五〇名の参加者がありました。

当日はあいにくの雨模様

で、小筋畝山の登山は断念しましたが、不入山に係わる森林学習の後、地元に残る四万十川文化的景観の一つである口目ケ市の古民家群や茶畑を通り、不入山林道にある森林軌道の遺構が残る「不入開山隧道」までをウォーキングしながら散策し、自然豊かな不入溪谷を満喫しました。



不入山開山隧道

クロモジでお箸作り



昼には地元食材をふんだんに使ったバイキング料理

でお腹を満たしたあと、クロモジやサクラを材料にした木工クラフトでお箸などを作り、木の温かみや香りにふれあいながら、晩夏の一日を楽しく過ごしました。

この企画を通じて、地元の方々や市街地からの参加者の皆様が、森林や国有林に対する理解や関心がより

一層深まることを期待しています。



その後、木の枝や実、パーツなどを使い自由に飾りつけを行い、子供らしい作品から大人顔負けの作品、オリジナルティーあふれる作品が完成しました。子供たちは満足いく作品ができたようで「早く家に飾りたい」「おばあちゃんに見せてあげたい」等笑顔で喜んでいました。

八月四日、高知県芸西村市民会館において村内の幼稚園児く小学生及びその保護者六二名を対象に親子木工教室を開催しました。

始めに当署職員から、間伐を実施する事によって、健全な森林を育て二酸化炭素吸収量を増やし地球温暖化防止に役立つていること、間伐された木は生活の色々な所に使われ役立っている事を説明し、森林の大切さをアピールしました。

その後、壁掛け、小物入の製作にとりかかり、親子で協力しながら楽しそうに作っていました。のこぎりや金槌を初めて使う子も多く、「手が疲れた」と言いながらも器用に使いこなしていました。その後、木の枝や実、パーツなどを使い自由に飾りつけを行い、子供らしい作品から大人顔負けの作品、オリジナルティーあふれる作品が完成しました。子供たちは満足いく作品ができたようで「早く家に飾りたい」「おばあちゃんに見せてあげたい」等笑顔で喜んでいました。この企画は恒例行事になっており、参加してくれた子供たちが森林や木材に興味を持ってくれるよう、

今後も工夫して実施していきたいと思えます。



お父さん、しっかり押さえておいてね。



八月二一日、高知県室戸市のNPO法人夢創房室戸迎鯨の杜(ゆめそうぼうむろとげいげいのもり)主催の「チャレンジアドベ

ンチャーワールド」の段ノ谷山登山に当署職員五名が参加しました。

「チャレンジアドベンチャーワールド」は八月二〇日〜二二日の三日間に、小学生三二名が室戸の海、山、川を体験する催しで、段ノ谷山には変わった形の天然スギがあり、それぞれに「大魔王杉」「火炎杉」「大杉」など、形から想像した名前を付けられており、室戸世界ジオパークサイトの一つでもあることから、二日目の行事として実施されたものです。

まず、登山前に段ノ谷山で一番雄大な「大杉」の根廻りの大きさを体感してもらうため、根廻りと同じ長

さのロープの中に入ってもらいました。全員入ってもまだ余裕があり、子供たちはこんな大きな木がある事が信じられないようでした。



「大杉」の根廻りの大きさ体験

登山は三班に分かれ、当署が作成した「段ノ谷天然杉ガイドマップ」「樹木の話」「ボードコール」を使い、樹木の見分け方、天然スギの名前の由来などを説明しながら登って行きました。

参加者の殆どが登山経験がなく、少し登っただけで「帰りたい」「疲れた」「まだ行くの？」などの弱気な発言が聞かれましたが、初めて見る天然スギに「うわ〜大きい」「どうしてこんな変わった形になるの」「何メートルくらいあるの」「ない」とおもしろい、段ノ谷山登山を終了しました。

「大杉」では登山前に体感した大杉の大きさと実物を比べてもらいました。やはり実物は想像より大きかったみたいで子供達は大きな歓声をあげていました。



「大杉」の下で

下山後は、当初予定していたコースの半分も歩いていないことから、「体力をつけるため、ゲームばかりでなく、外で遊んで体力をつけるように、また、樹木に興味を湧いたなら家の近くの樹木を観察して下さい。」